

高幡地域アクションプランの追加・削除・拡充等 (予定項目)

高 幡 地 域 本 部
令和7年1月31日(金)

地域アクションプランへの支援の方向性

新規事業の掘り起こしや既存事業が抱える課題の解決を図りながら、地域アクションプランの実現に向けて、産業振興推進地域本部を中心に取り組みを推進していく。

（１）地域アクションプランの実行支援

- ①課題解決型アドバイザーと連携して、個別課題の解決を支援
- ②課題一貫支援型アドバイザーと連携して、地域への経済波及効果が大きい案件の全体的な課題の整理・分析及び解決策の検討を支援
- 拡** ③中山間地域における正規雇用の拡大を図るため、実施主体が取り組む設備投資への支援を強化

（２）新たな地域アクションプランの掘り起こし

- ①発掘支援型アドバイザーと連携して、地域アクションプランへの位置付けを目指す取り組みを掘り起こし
- 拡** ②地域おこし協力隊や起業者の情報を基に個別訪問を行うなど、市町村や商工会等と連携した取り組みを強化

地域アクションプランの増減 R6年度 153件 → R7年度 156件（+3）

（1）追加（新規）： 4 件

- 日高村におけるクラフトビール工房を軸にした交流人口の拡大と地域の活性化（日高村）
- 仁淀川町「池川こんにゃく」の生産拡大による地域の活性化（仁淀川町）
- 仁淀川町の町内資源を活用したジン・ウイスキーのブランド化による地域の活性化（仁淀川町）
- 仁淀川町アウトドアリゾートプロジェクト（仁淀川町）

（2）削除（廃止）：▲ 2 件

- くろしおミウガ販売拡大プロジェクト（須崎市、中土佐町、津野町）
- 佐賀地域の資源を活用した拠点ビジネス推進（黒潮町）

（3）分割： 1 件

- 宿毛市の地域資源を活用した観光振興（宿毛市）
→[分割] 道の駅「すくもサニーサイドパーク」を拠点とした地域振興（宿毛市）

	R6年度 (第5期)	R7年度 (第5期Ver.2)				
		増減				AP数
		追加	削除	分割	計	
安芸	20					20
物部川	19					19
高知市	14					14
嶺北	16					16
仁淀川	29	4			4	33
高幡	25		▲ 1		▲ 1	24
幡多	30		▲ 1	(1→2) 1		30
合計	153	4	▲ 2	1	3	156

高幡地域アクションプラン項目（第5期計画（R6年度）と 第5期計画Ver.2（R7年度）の対比表）

【高幡地域】									
No.	現在(令和6年度)	須 崎 市	中 土 佐 町	梶 原 町	津 野 町	四 万 十 町	No.	改定案(令和7年度)	
		6	5	7	4	9			
1	くろしおミョウガ販売拡大プロジェクト	●	●		●		削除		
2	梶原町産キジ肉の販売拡大プロジェクト			●				1	梶原町産キジ肉の販売拡大プロジェクト
3	四万十流域資源のブランド力を活かした地域の活性化					●		2	四万十流域資源のブランド力を活かした地域の活性化
4	四万十町畑作振興プロジェクト					●		3	四万十町畑作振興プロジェクト
5	四万十ポークのブランド化の推進					●		4	四万十ポークのブランド化の推進
6	梶原100年の森林・人づくりプロジェクト ～森と水の文化を紡ぐ～			●				5	梶原100年の森林・人づくりプロジェクト ～森と水の文化を紡ぐ～
7	須崎市産養殖マダイ等の販路拡大	●						6	須崎市産養殖マダイ等の販路拡大
8	ゆすはらアメゴの生産・販売促進			●				7	ゆすはらアメゴの生産・販売促進
9	「鰹乃國水産」ブランドの創出・販売促進		●					8	「鰹乃國水産」ブランドの創出・販売促進
10	道の駅なかとさSEAプロジェクト		●					9	道の駅なかとさSEAプロジェクト
11	梶原町地産地消・外商の促進			●				10	梶原町地産地消・外商の促進
12	梶原町産の桜を活用した加工品等の生産・販売拡大			●				11	梶原町産の桜を活用した加工品等の生産・販売拡大
13	津野町地産地消・外商推進プロジェクト				●			12	津野町地産地消・外商推進プロジェクト
14	道の駅「あぐり窪川」の機能強化と地域の活性化					●		13	道の駅「あぐり窪川」の機能強化と地域の活性化
15	四万十町生姜生産農家と連携した集出荷体制の整備と販売拡大					●		14	四万十町生姜生産農家と連携した集出荷体制の整備と販売拡大
16	高幡地域における広域観光の推進	●	●	●	●	●		15	高幡地域における広域観光の推進
17	須崎市海のまちプロジェクト	●						16	須崎市海のまちプロジェクト
18	浦ノ内マリンパークにおける交流人口の拡大による地域の活性化	●						17	浦ノ内マリンパークにおける交流人口の拡大による地域の活性化
19	スケートパークを核とした地域の活性化	●						18	スケートパークを核とした地域の活性化
20	カツオを起点とした持続可能な観光を主軸とする地域産業の振興		●					19	カツオを起点とした持続可能な観光を主軸とする地域産業の振興
21	梶原町の体験型・滞在型観光の推進			●				20	梶原町の体験型・滞在型観光の推進
22	津野町まるごと体感！観光推進プロジェクト				●			21	津野町まるごと体感！観光推進プロジェクト
23	わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり					●		22	わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり
24	～しまんとがわのまんなか～四万十町観光交流促進事業					●		23	～しまんとがわのまんなか～四万十町観光交流促進事業
25	四万十町観光交流拠点施設の整備					●		24	四万十町観光交流拠点施設の整備

高幡地域アクションプランの追加・削除・拡充等(予定項目)

■追加

なし

■削除

NO.	アクションプラン名	削除する理由
1	No. 1 くろしおミョウガ販売拡大プロジェクト(須崎市・中土佐町・津野町) 【実施主体】JA 土佐くろしお、須崎市、中土佐町、津野町、(株)E-システム	JA 土佐くろしおを中心とした販売促進等に取り組み、一定の成果が出ている。また、地域産業クラスタープランの計画期間が令和6年度で終了するため、今後は産業成長戦略において支援を継続することとし、削除する。

■その他(拡充、統合、分割等)

NO.	アクションプラン名	見直しする内容
1	No. 4 四万十町畑作振興プロジェクト(四万十町) 【実施主体】四万十野菜(同)、(株)ハマヤ	【目標の追加】 四万十町産有機生姜等の地域の農産物を使用した加工品について、製造の強化と販売の拡大に取り組むため、指標に「(2) 四万十野菜(同) 加工品売上高」を追加する。
2	No. 20 カツオを起点とした持続可能な観光を主軸とする地域産業の振興(中土佐町) 【実施主体】(一社)なかとさ観光協会、中土佐町、(株)中土佐町地域振興公社、大正町市場協同組合、中土佐町商工会	【目標の修正】 指標の「(3) タタキ体験受入数」について、R9 目標を下記のとおり上方修正する。 [R9 目標] (修正前) 1,800 人 → (修正後) 2,200 人

削除項目(案)

削除

高幡地域アクションプラン		分野	農業
AP 名 (実施地域)	No. 1　くろしおミョウガ販売拡大プロジェクト (須崎市・中土佐町・津野町)		
実施主体	JA 土佐くろしお、須崎市、中土佐町、津野町、(株)E-システム		
AP への位置づけ	R 3.4 月		
事業概要	JA 土佐くろしお管内（須崎市・中土佐町・津野町）で栽培するミョウガの販売拡大を核として、生産体制強化に向けたデータ駆動型農業の支援、新規就農者の育成確保、販売拡大に向けた県内外消費宣伝活動に取り組む。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
収量・品質の向上	・再生ヤシガラ工場（プラント倉庫）完成（R3） ・ハウス整備（国補助事業）（R3） ・環境制御装置整備（県事業）（R3～5） ・実証試験、調査（環境制御技術・花蕾腐敗対策・病虫害防除など）（R3～5） ・循環型養液システムに係る課題解決及び導入推進（R3～5） ・Iopクラウド「SAWACHI」から取得した環境データと出荷データの分析 ・夏期の高温ミョウガの生育・収量に及ぼす影響の実証ほ設置	[成果] ・過去最高販売額 72 億（R6） [課題] ・地域内外の事業者等と連携したミョウガの消費拡大の推進
販売促進	・新ミョウガメニューの考案（R3～5） ・TV、WEB を活用した消費宣伝（R3～5） ・タイ王国輸出対応に向けた出荷場点検（R3）	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)ミョウガ出荷量	3,521t (R5)	3,464t			3,800t
(2)販売額	68 億円 (R5)	72 億円			70 億円
(3)新規雇用者数	6 名 (R2～5 累計)				10 名 (R6～9 累計)

園芸年度：9 月～8 月

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
収量・品質の向上 ■ JA 土佐くろしお、□ 県（須崎農業振興センター） ・基本技術の周知と改善 ・データ駆動型農業の実践支援 実証試験・調査（環境制御技術・花蕾腐敗対策・循環型養液肥料・病虫害防除等） 担い手の確保・育成 ■ JA 土佐くろしお、□ 県（須崎農業振興センター） ・新規就農に向けた支援対策の検討および実践 ・新規希望者等の情報整理・共有 ・就農相談対応 ・新規就農者の技術向上 ・現地巡回指導	現地検討会・巡回指導の実施				
	収量向上に向けた実証試験等				
	就農相談・現地巡回指導の実施				
	農業研修会等の実施				
販売促進 ■ JA 土佐くろしお、□ 県（須崎農業振興センター、地域本部） ・消費者ニーズに対応した販売 ・県内外消費宣伝活動 ・地産・地消活動の提案、支援 □ 県（地域本部） ・地域との連携・調整やアドバイザー活用の支援 ・商談会等の情報提供	県内外消費宣伝活動の実施				
	海のまちプロジェクトや地域との連携				
	関西アンテナショップ等との連携支援				

高幡地域アクションプラン		分野	農業
AP 名 （実施地域）	No. 3 四万十流域資源のブランド力を活かした地域の活性化 （四万十町）		
実施主体	四万十の栗再生プロジェクト推進協議会、（株）四万十ドラマ、四万十町		
AP への位置づけ	H22.4 月		
事業概要	四万十川流域の資源を活かして流域の生産者と加工事業者が連携して、6 次産業化の取り組みを拡大することで、農業者の所得向上と雇用の創出を図り、中山間地域の活性化を目指す。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
生産量の増大	・苗木の補助などにより、栗の新改植を推進（H22～） ・担い手として「しまんと新一次産業(株)」設立（H24） ・栗技術チーム会での低樹高化に向けたせん定技術の普及、特選栗認定の推進（H24～） ・人参芋の栽培を推進する「四万十の芋プロジェクト協議会」を設立（R3） ・茶のオーガニック化を目指した産地づくり支援（R5）→産振アドバイザー制度の活用	[成果] ・四万十ドラマ雇用者数（加工部） H30：8 人 ↓ R 4：15 人 ・新商品開発 R3：8 品 R4：3 品 ・加工品売上 H30：9,900 万円 ↓ R 4：3.4 億円
人材育成	・農山漁村振興交付金を活用した研修プログラム開発、研修プログラムモニターツアーの実施	
施設機械整備とブランド化	・(株)四万十ドラマがカフェを併設した加工場「おちゃくりカフェ」を整備（H25）→産振補助金の活用 ・しまんと新一次産業(株)ペースト工場が完成（H29）→産地パワーアップ事業の活用 ・しまんと新一次産業(株)に高品質ペースト機械導入（R元）→次世代型ハウス・農業クラスター促進事業の活用 ・(株)四万十ドラマ新工場への加工機械整備（R3）→R2（R3 繰越）新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金の活用 ・商品増産体制整備、営業体制強化の支援（R4～5）→産振アドバイザー制度の活用	[課題] ・高齢化等による生産量の減少 ・新商品の開発とブランド化による販路の拡大

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
（1）JA 栗集荷量 （大正、十和、西土佐）	26.6t （R4）				30t
（2）芋生産量 （四万十の芋プロジェクト協議会）	44t （R4）				70t
（3）(株)四万十ドラマ 新規雇用者数	－				10 人 （R6～9 累計）
（4）(株)四万十ドラマ 加工品販売額	3.4 億円 （R4）				5 億円

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
生産の強化 ■(株)四万十ドラマ ・しまんと流域農業 organic プロジェクトの推進（地域の農業法人との連携による栗・芋等の栽培拡大） ・しまんと地栗植樹プロジェクト（農業部門の立ち上げ） □県（高南農業改良普及所等） ・栗：剪定講習会、目慣らし会開催支援 ・芋：病虫害対策の周知、有機農業に関する情報提供		農業部門立ち上げ			
		農業法人との連携による栽培拡大			
地域外との交流促進 ■(株)四万十ドラマ ・四万十の人々の日々の営みから学ぶ『しまんと分校』と連携した研修プログラムの実施 □県（地域本部等） ・研修プログラムの実施、運営に関するアドバイザーの活用提案		開校	研修プログラムの実施、地域外との交流		
加工流通・販売拡大 ■(株)四万十ドラマ ・生産拡大に向けた施設整備や設備の検討（貯蔵庫、冷凍庫、農作物物流通センター等） ・加工技術の向上及び繁忙期の平準化による生産性の向上 ・営業課の人員拡充、イベント企画と連動したギフト商品の展開 ・自社 EC 販売強化（公式 LINE を通じた情報発信やクーポン配布） □県（地域本部等） ・産振補助金の紹介、研修会や支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し		生産体制の拡大・検討		施設整備	
		ブランド力 UP に向けた商品展開・開発			
		営業体制の強化、PDCA			

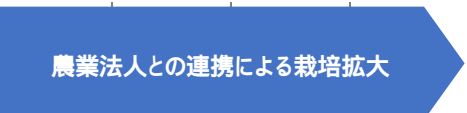
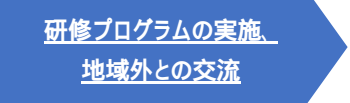
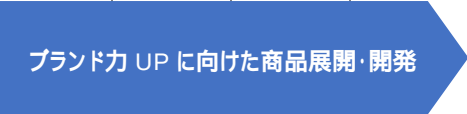
修正後

高幡地域アクションプラン

	分野	農業
AP 名 (実施地域)	No. 2 四万十流域資源のブランド力を活かした地域の活性化 (四万十町)	
実施主体	四万十の栗再生プロジェクト推進協議会、(株)四万十ドラマ、四万十町	
AP への位置づけ	H22.4 月	
事業概要	四万十川流域の資源を活かして流域の生産者と加工事業者が連携して、6 次産業化の取り組みを拡大することで、農業者の所得向上と雇用の創出を図り、中山間地域の活性化を目指す。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
生産量の増大	・苗木の補助などにより、栗の新改植を推進（H22～） ・担い手として「しまんと新一次産業(株)」設立（H24） ・栗技術チーム会での低樹高化に向けたせん定技術の普及、特選栗認定の推進（H24～） ・人参芋の栽培を推進する「四万十の芋プロジェクト協議会」を設立（R3） ・茶のオーガニック化を目指した産地づくり支援（R5）→産振アドバイザー制度の活用	[成果] ・四万十ドラマ雇用者数（加工部） H30：8 人 ↓ <u>R5：20 人</u> ・新商品開発 R3：8 品 <u>R4：2 品</u> <u>R5：3 品</u> ・加工品売上 H30：9,900 万円 ↓ <u>R5：3.9 億円</u>
人材育成	・農山漁村振興交付金を活用した研修プログラム開発、研修プログラムモニターツアーの実施	
施設機械整備とブランド化	・(株)四万十ドラマがカフェを併設した加工場「おちゃくりカフェ」を整備（H25）→産振補助金の活用 ・しまんと新一次産業(株)ペースト工場が完成（H29）→産地パワーアップ事業の活用 ・しまんと新一次産業(株)に高品質ペースト機械導入（R元）→次世代型ハウス・農業クラスター促進事業の活用 ・(株)四万十ドラマ新工場への加工機械整備（R3）→R2（R3 繰越）新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金の活用 ・商品増産体制整備、営業体制強化の支援（R4～5）→産振アドバイザー制度の活用	[課題] ・高齢化等による生産量の減少 ・新商品の開発とブランド化による販路の拡大

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1) JA 栗集荷量 (大正、十和、西土佐)	26.6t (R4)	<u>18.1t</u>			30t
(2) 芋生産量 (四万十の芋プロジェクト協議会)	44t (R4)	<u>45.7t</u>			70t
(3) (株)四万十ドラマ 新規雇用者数	—				10 人 (R6～9 累計)
(4) (株)四万十ドラマ 加工品販売額	3.4 億円 (R4)				5 億円

第 5 期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
生産の強化 ■(株)四万十ドラマ ・しまんと流域農業 organic プロジェクトの推進（地域の農業法人との連携による栗・芋等の栽培拡大） ・しまんと地栗植樹プロジェクト（農業部門の立ち上げ） □県（高南農業改良普及所等） ・栗：剪定講習会、目慣らし会開催支援 ・芋：病虫害対策の周知、有機農業に関する情報提供				
				
地域外との交流促進 ■(株)四万十ドラマ ・四万十の人々の日々の営みから学ぶ『しまんと分校』(R7 開校)と連携した研修プログラムの実施 □県（地域本部等） ・研修プログラムの実施、運営に関するアドバイザーの活用提案				
加工流通・販売拡大 ■(株)四万十ドラマ ・生産拡大に向けた施設整備や設備の検討（貯蔵庫、冷凍庫、農作物物流通センター等） <u>・生産性の向上(効率的な生産に向けた機械導入の検討)</u> <u>・営業体制の強化(商品提案の磨き上げやアプローチ方法の分析)</u> ・自社 EC 販売強化 (<u>EC サイトの改良</u>) <u>・地域資源を活かした新商品開発</u> □県（地域本部等） ・産振補助金の紹介、研修会や支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し				
				
				

修正前

分野	農業
----	----

AP 名 (実施地域)	No.4 四万十町畑作振興プロジェクト (四万十町)
実施主体	四万十野菜(同)、(株)ハマヤ
AP への位置づけ	H28.4 月
事業概要	有機栽培や特別栽培等の野菜・米を栽培する農業者と連携して、外商活動等を強化し野菜の産地化を進める。また、地域の食材を使用した加工品の製造・販売により地域の農業者の所得向上を目指す。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
農業者連携の拡大・強化	・「四万十有機部会」を中心とした勉強会の実施（H28～30） ・県外卸売業者の招へい（継続） ・地域野菜ブランドとして「しまんと畑」を旗揚げ（H29～） ・サトイモ、ショウガの出荷調整機械の導入（H30） ・J-GAP 認証の取得（R2～R5） ・四万十町での就農希望者の雇用（R2～） ・現地検討会「有機生姜圃場クリニック」の実施（R2～） ・有機 JAS 認証の取得（R3～） ・有機水稻の試験栽培（R5～）	[成果] ・四万十野菜(同)への出荷者の増加 H28：4名→R4：23名 ・新商品の開発 ～R5：13品 [課題] ・有機農業や特別栽培を目指す人材の確保
6 次産業化の推進	・ショウガ等を使用した新商品開発（R2）→6 次産業化セミナー（実践コース）の活用 ・加工商品の磨き上げ（R3）→6 次産業化セミナー（アップグレードコース）の活用 ・商品化の取り組み（R3～R4）→産振アドバイザー制度の活用 ・県版 HACCP 認証取得に向けた研修参加（R3～） ・加工施設の整備（R4）→新事業チャレンジ支援事業費補助金の活用 ・農林水産省 六次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画の認定（R4～） ・農山漁村発イノベーション推進事業による専門家派遣事業の活用（R5～）	・需要に応じた生産力の強化 ・野菜・米及び加工品の販路開拓

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
四万十野菜(同)売上高	1.28 億円 (R5)				1.36 億円

第 5 期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
農業者連携の拡大・強化 ■ 四万十野菜(同) ・栽培技術現地検討会（圃場クリニック）・勉強会の実施、新規有機農業者との連携、就農希望者の研修受入れ ・有機栽培における水稲と野菜による輪作の実践、有機米専用施設・機械導入の検討 □ 県（高南農業改良普及所等） ・栽培技術検討会の開催支援、栽培技術指導、実証ほの設置 ・有機農業及び研修生受入れ・独立等に関する情報提供				
		現地検討会・勉強会の開催		
	水稲試験栽培	有機農業者連携による生産・販売		
連携強化に伴う卸事業の拡大 ■ 四万十野菜(同)、(株)ハマヤ ・有機農産物等にかかる外商活動の強化、輸送システムの検討 □ 県（高南農業改良普及所、地域本部等） ・商談会等の情報提供				
		有機農産物等の外商活動		
加工商品の販売拡大 ■ 四万十野菜(同) ・商談会等への参加による販売拡大 ・輸出を視野に入れた体制整備（食品安全規格（JFS-C）の取得等） □ 県（地域本部等） ・商談会等の情報提供				
		営業活動の強化		
		JFS-B 取得	JFS-C 取得	
加工商品の拡充 ■ 四万十野菜(同) ・マーケットインによる新商品開発と既存商品のブラッシュアップ □ 県（地域本部等） ・商品開発に関する産振アドバイザー制度活用の提案、各種支援制度の情報提供				
		新商品の開発と磨き上げ		

修正後

高幡地域アクションプラン

分野	農業
----	----

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
農業者連携の拡大・強化	・「四万十有機部会」を中心とした勉強会の実施（H28～30） ・県外卸売業者の招へい（継続） ・地域野菜ブランドとして「しまんと畑」を旗揚げ（H29～） ・サトイモ、ショウガの出荷調整機械の導入（H30） ・J-GAP 認証の取得（R2～R5） ・四万十町での就農希望者の雇用（R2～） ・現地検討会「有機生姜園場クリニック」の実施（R2～） ・有機 JAS 認証の取得（R3～） ・有機水稻の試験栽培（R5～）	[成果] ・四万十野菜(同)への出荷者の増加 H28：4名→R4：23名 ・新商品の開発 R2～R5：13品 [課題] ・有機農業や特別栽培を目指す人材の確保
6 次産業化の推進	・ショウガ等を使用した新商品開発（R2）→6次産業化セミナー（実践コース）の活用 ・加工事業の事業戦略・経営計画策定→産振補助金(ステップアップ事業)の活用(R3) ・加工商品の磨き上げ（R3）→6次産業化セミナー（アップグレードコース）の活用 ・商品化の取り組み（R3～R4）→産振アドバイザー制度の活用 ・県版 HACCP 認証取得に向けた研修参加（R3～） ・加工施設の整備（R4）→新事業チャレンジ支援事業費補助金の活用 ・農林水産省 六次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画の認定（R4～） ・農山漁村発イノベーション推進事業による専門家派遣事業の活用（R5～） ・機能性食品表示取得の検討→産振補助金(ステップアップ事業)の活用(R6)	・需要に応じた生産力の強化 ・野菜・米及び加工品の販路開拓

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
四万十野菜(同)売上高	1.28 億円 (R5)				1.36 億円
<u>四万十野菜(同)加工品 売上高</u>	<u>79 千円</u> <u>(R5)</u>				<u>1,095 千円</u>

第 5 期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
農業者連携の拡大・強化 ■ 四万十野菜(同) ・栽培技術現地検討会（圃場クリニック）・勉強会の実施、新規有機農業者との連携、就農希望者の研修受入れ ・有機栽培における水稲と野菜による輪作の実践、有機米専用施設・機械導入の検討 □ 県（高南農業改良普及所等） ・栽培技術検討会の開催支援、栽培技術指導、実証ほの設置 ・有機農業及び研修生受入れ・独立等に関する情報提供				
		現地検討会・勉強会の開催		
	水稲試験栽培	有機農業者連携による生産・販売		
連携強化に伴う卸事業の拡大 ■ 四万十野菜(同)、(株)ハマヤ ・有機農産物等にかかる外商活動の強化、輸送システムの検討 □ 県（高南農業改良普及所、地域本部等） ・商談会等の情報提供		有機農産物等の外商活動		
加工商品の販売拡大 ■ 四万十野菜(同) ・商談会等への参加による販売拡大 ・輸出を視野に入れた体制整備（食品安全規格（JFS-C）の取得等） □ 県（地域本部等） ・商談会等の情報提供		営業活動の強化		
			JFS-B 取得	JFS-C 取得
加工商品の拡充 ■ 四万十野菜(同) ・マーケットインによる新商品開発と既存商品のブラッシュアップ □ 県（地域本部等） ・商品開発に関する産振アドバイザー制度活用の提案、各種支援制度の情報提供		新商品の開発と磨き上げ		

修正前

高幡地域アクションプラン		分野	林業
AP 名 （実施地域）	No. 6 梶原 100 年の森林・人づくりプロジェクト ～森と水の文化を紡ぐ～ （梶原町）		
実施主体	梶原町、梶原町森林組合、ゆすはらペレット(株)、ゆすはらエネルギー(株)、 (株)KIREcub		
AP への位置づけ	H21.4 月		
事業概要	梶原町の根幹をなす『森林と水の文化』は、森林と水によって形成されてきた「産業の 発展」と、森林と水に留意しながらすすめられる「自然環境の保全」・「生活環境の整 備」、心豊かな町民の生活の中から生まれる「人・食・自然・伝統・文化」である。 この伝統を将来にわたって生かしながら、新たな『森林と水の文化』を形成するため、 森林の有する機能の高度発揮に取り組み、地域内経済の循環、林業経営のイノベー ション、地域人材を育む力を醸成し、町有林の伐採から再造林の実現、再生可能エネ ルギーの地産地消化に取り組む。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
森林資源の循環利 用	森林資源の再生産 ・分収造林の競売による主伐の推進と木材の安定供給 木材の付加価値創造 ・FSC 認証材製材品の販売強化 林業振興計画の方針策定→産振アドバイザー制度の活用	[成果] ・森林組合原木取扱量 H30：15,704 m ³ →R4：19,872 m ³ ・FSC 認証材の販売量 H30：998 m ³ →R5：900 m ³ ・環境先進企業との森林 づくり協定数 H30:5 社→R5:8 社 ・木質ペレット生産量 H30:1,276t →R5：1,400t ・ReMORI 設立（R2） ・CoMORI 設立（R2） ・KIREcub 設立（R5） ・梶原森林づくり大学構想 （R3）
森林と関わる新たな 人づくり	エネルギーの地産地消 ・木質ペレット工場の施設整備 おが粉製造機(H24)、粉碎機(H30)、燃焼灰袋詰め装置(R3) 環境先進企業との協働 ・協働の森づくり協定を締結、森林整備と交流活動、担い手の育成 次代を担う職業人の育成 ・林業ミッションの地域おこし協力隊の導入（R3～）	[課題] ・森林資源の活用促進と 伐採後の再造林 ・木質バイオマス発電所新 設に伴う生産体制の拡充 及び原木供給 ・森林を通じた関係人口 の拡大と林業担い手確保
交流人口の拡大	滞在型の観光地域づくりの推進（太郎川公園） ・きつつき学習館の改修（R4）→観光振興推進総合支援事業費 補助金（観光資源磨き上げ事業）の活用 ・キャンプ場の整備、多言語対応サインの設置（R4）→観光施設 等緊急整備事業費補助金の活用 ・湿性植物園の整備(R4) → 博覧会受入環境等整備事業費 補助金の活用 ・太郎川公園リニューアルオープン（R5） ・森林の文化シンポジウム、森林フェスティバル等イベント開催	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)林業の新規就業者数	6 人 (R4)				16 人 (R6～9 累計)
(2)町実施の再造林面積	2.08ha (R4)				30ha
(3)森林由来の新商品開 発（もの・サービス）	-				4 品 (R6～9 累計)
(4)木質ペレット生産量	1,446 t (R4)				2,300 t
(5)太郎川公園の利用者 数	8,083 人 (R4)				30,000 人

第 5 期計画における行程表					
事業概要	R6	R7	R8	R9	
林業担い手の確保 ■ 梶原町、梶原町森林組合 ・地域おこし協力隊等（民間事業体）の確保・育成 ・地域おこし協力隊等（民間事業体）の育成体制の構築 ・退任後の収入確保に向けた森林サービス産業創出の促進 ・半林半 X といった新たな働き方の提案 ・町有林（分収林含む）を主体とした安定的な事業量の確保 □ 林業事務所、地域本部 ・支援制度に関する情報提供、現場指導、取組伴走支援、進捗管理等					地域おこし協力隊等の確保・育成
					指導体制の検討
					指導体制の運用
					マーケティング、試行、起業支援
					町有林（分収林）の計画的発注
環境先進企業との協働の高度化 ■ 梶原町、梶原町森林組合、ゆすはらペレット(株)、ゆすはらエネルギー(株)、 (株)KIREcub ・環境先進企業の知見と梶原町の資源を活用した森林由来の新商品開発 ・木質ペレットの増産（発電施設の新設、木質ペレット製造施設の増設） ・環境先進企業に対する「梶原町の森林と水の文化」の理解促進（高校生 によるプレゼン、社会見学） ・環境先進企業・高校生・地域おこし協力隊の協働事業の実施 □ 林業事務所、地域本部 ・支援制度に関する情報提供、現場指導、取組伴走支援、進捗管理等					マーケティング、試作、販促 P R 活動
					施設整備
					町内施設へ電力と熱の供給
					定期的な交流会の実施
滞在型の観光地域づくりの推進（太郎川公園を活用した関係人口の創出） ■ 梶原町 ・次世代への森林環境教育の実施 ・体験型イベントやシンポジウムの開催 ・観光協会など関係機関との連携強化 □ 地域本部、林業事務所 ・支援制度に関する情報提供、取組伴走支援、進捗管理等					太郎川公園の環境整備や機能の充実
					森のようちえん・梶原高校 P T
					森林フェスティバル等イベントの開催
					森林セラピーの推進
					森林の体験プランの造成、周遊促進

高幡地域アクションプラン	分野	林業
--------------	----	----

AP 名 (実施地域)	No. <u>5</u> 梶原 100 年の森林・人づくりプロジェクト ～森と水の文化を紡ぐ～ (梶原町)
実施主体	梶原町、梶原町 森林組合、ゆすはらペレット(株)、ゆすはらエネルギー(株)、 (株)KIRecub
AP への位置づけ	H21.4 月
事業概要	梶原町の根幹をなす『森林と水の文化』は、森林と水によって形成されてきた「産業の発展」と、森林と水に留意しながらすすめられる「自然環境の保全」、「生活環境の整備」、心豊かな町民の生活の中から生まれる「人・食・自然・伝統・文化」である。 この伝統を将来にわたって生かしながら、新たな『森林と水の文化』を形成するため、森林の有する機能の高度発揮に取り組み、地域内経済の循環、林業経営のイノベーション、地域人材を育む力を醸成し、町有林の伐採から再生林の実現、再生可能エネルギーの地産地消化に取り組む。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
森林と関わる新たな人づくり	環境先進企業との協働 ・協働の森づくり協定を締結、森林整備と交流活動、担い手の育成 次代を担う職業人の育成 ・林業ミッションの地域おこし協力隊の導入（R3～）	[成果] ・森林組合原木取扱量 H30：15,704 m ³ → R5：16,500 m³ ・FSC 認証材の販売量 H30：998 m ³ → R5：900 m ³ ・環境先進企業との森林 づくり協定数 H30:5社→R5:8社 ・木質ペレット生産量 H30:1,276t → R5：1,400t ・ReMORI 設立（R2） ・CoMORI 設立（R2） ・KIRECUB 設立（R5） ・梶原森林づくり大学構想 （R3） ・木工品開発：6商品
森林資源の循環利用	エネルギーの地産地消 ・木質ペレット工場の施設整備 おが粉製造機の導入（H24）→産振補助金を活用、 粉碎機（H30）、燃焼灰袋詰め装置（R3） 森林資源の再生産 ・分収造林の競売による主伐の推進と木材の安定供給 木材の付加価値創造 ・FSC 認証材製材品の販売強化 林業振興計画の方針策定→産振アドバイザー制度の活用 ・木工品等の開発（R6）	・木工品開発：6商品 （R6）
交流人口の拡大	滞在型の観光地域づくりの推進（太郎川公園） ・きつつき学習館の改修（R4）→観光振興推進総合支援事業費 補助金（観光資源磨き上げ事業）の活用 ・キャンプ場の整備、多言語対応サインの設置（R4）→観光施設 等緊急整備事業費補助金の活用 ・湿性植物園の整備（R4）→博覧会受入環境等整備事業費 補助金の活用 ・太郎川公園リニューアルオープン（R5） ・森林の文化シンポジウム、森林フェスティバル等イベント開催	[課題] ・森林資源の活用促進と 伐採後の再造林 ・木質バイオマス発電所新 設に伴う生産体制の拡充 及び原木供給 ・森林を通じた関係人口 の拡大と林業担い手確保

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)林業の新規就業者数	6 人 (R4)				16 人 (R6～9 累計)
(2)町実施の再造林面積	2.08ha (R4)				30ha
(3)森林由来の新商品開発（もの・サービス）	-				4 品 (R6～9 累計)
(4)木質ペレット生産量	1,446 t (R4)				2,300 t
(5)太郎川公園の利用者数	8,083 人 (R4)				30,000 人

第 5 期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
林業担い手の確保				
■ 梶原町、梶原町森林組合	地域おこし協力隊等の確保・育成			
・地域おこし協力隊等（民間事業体）の確保・育成				
・地域おこし協力隊等（民間事業体）の育成体制の構築	指導体制の検討		指導体制の運用	
・退任後の収入確保に向けた森林サービス産業創出の促進				
・半林半 X とした新たな働き方の提案	マーケティング、試行、起業支援			
・町有林（分収林含む）を主体とした安定的な事業量の確保				
□ 林業事務所、地域本部	町有林（分収林）の計画的発注			
・支援制度に関する情報提供、現場指導、取組伴走支援、進捗管理等				
環境先進企業との協働の高度化				
■ 梶原町、梶原町森林組合、ゆすはらベレット(株)、ゆすはらエネルギー(株)、(株)KIRECUB	マーケティング、試作、販促 P R 活動			
・環境先進企業の知見と梶原町の資源を活用した森林由来の新商品開発				
・木質ベレットの増産（発電施設の新設、木質ベレット製造施設の増設）	施設整備		町内施設へ電力と熱の供給	
・環境先進企業に対する「梶原町の森林と水の文化」の理解促進（高校生によるプレゼン、社会見学）				
・環境先進企業・高校生・地域おこし協力隊の協働事業の実施	定期的な交流会の実施			
□ 林業事務所、地域本部				
・支援制度に関する情報提供、現場指導、取組伴走支援、進捗管理等				
滞在型の観光地域づくりの推進（太郎川公園を活用した関係人口の創出）				
■ 梶原町	太郎川公園の環境整備や機能の充実			
・次世代への森林環境教育の実施	森のようちえん・梶原高校 P T			
・体験型イベントやシンポジウムの開催	森林フェスティバル等イベントの開催			
・観光協会など関係機関との連携強化				
□ 地域本部、林業事務所	森林セラピーの推進			
・支援制度に関する情報提供、取組伴走支援、進捗管理等	森林の体験プランの造成、周遊促進			

修正項目(案)

修正前

高幡地域アクションプラン

	分野	商工業
AP 名 (実施地域)	No.10 道の駅なかとさ SEA プロジェクト (中土佐町)	
実施主体	(株)SEA プロジェクト、中土佐町	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	「道の駅なかとさ」を拠点に、中土佐町の伝統文化や人をはじめとする地域資源を有効に活用して、中土佐町の魅力向上や町全体の賑わいの創出を図り、所得向上及び雇用の創出など町全体に経済効果を波及させる。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
賑わい創出への展開	・道の駅整備（H28）、オープン（H29）→産振補助金の活用 ・各種フェアや季節感のあるイベントの開催（H29～） ・SNS やメディア等を活用した PR（H29～） ・人材育成・魅力ある店づくり（R3）→産振アドバイザー制度の活用 ・ファストフードコーナーの集客力向上（R5） →産振アドバイザー制度の活用	[成果] ・道の駅来場者数 H29.7 月～R5.3 月末： 143.1 万人 ・外販による売上額 R4：968 千円 ・町内出荷者売上額 H29.7.6～R5.3 月末： 375,201 千円 ・新商品の開発 ～R5：11 商品
周辺施設との連携強化	・フェリー客の中土佐町への誘客に向けた、道の駅「なかとさ」を拠点とする情報発信強化及び周遊促進社会実験の実施（R2） ・黒潮本陣との連携企画（黒潮本陣 25 周年企画と合わせた道の駅クーポン発行など）（R3） ・メジカの新子の情報共有等による誘客の促進（R4～） ・大正町市場事業者とのイベントの共催（R4～） ・商店街商品の外販（R4～）	[課題] ・商品充実に向けた生産者の確保とその連携 ・中心商店街や町内施設との連携の強化
地産外商の強化	・新商品開発（H29～） ・インターネット販売等を活用した外商活動（H30～） ・JR 四国おもてなし観光列車、久礼駅での物販販売（R2～4） ・県外イベントへの参加・商談会への出展（R2～）	・外商活動の強化

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
売上高（施設全体）	3.0 億円 (R4)				3.9 億円

【用語】 ・SEA プロジェクト：Shopping（買う）、Eating（食べる）、Amusement（楽しむ）の頭文字から SEA プロジェクトと名付けられた。

第 5 期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
道の駅商品の充実 ■(株)SEA プロジェクト ・生産者・事業者への声かけや説明会による新たな出荷者の掘り起こし 道の駅の集客促進 ■(株)SEA プロジェクト ・各テナント・生産者との連携によるイベント開催 ・広報・PR 活動（SNS 等含む）による商品・イベント情報発信強化 □県（地域本部） ・情報発信（SNS）について産振アドバイザー制度等の活用を提案				
中心商店街への観光客誘導 ■(株)SEA プロジェクト ・観光客周遊促進に向けた情報共有による連携や共同企画の実施 ・道の駅からの周遊プラン作成、PR ・商品を通した町内事業者の魅力発信 □県（地域本部） ・周遊プラン作成に産振アドバイザー制度を提案	ニーズ調査	周遊プラン作成	サービス展開	
販売強化 ■(株)SEA プロジェクト ・EC サイト内容見直し（商品情報の更新・追加、購入しやすいよう操作性を向上）による販売力強化 ・製造強化のための冷凍庫の増設、作業人員の確保 ・町内産品を活用した道の駅オリジナル商品による中土佐町の魅力発信 ・外商活動強化による販売拡大 □県（地域本部） ・各種支援制度の情報提供	修正点 洗い出し	サイト 改修	運用	
	計画 作成	施設 整備	人員確保 製造・販売	
			道の駅オリジナル商品開発・販売	
			イベント・商談会・催事への参加	

修正後

高幡地域アクションプラン

分野 商工業

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
賑わい創出への展開	・道の駅整備（H28）、オープン（H29）→産振補助金の活用 ・各種フェアや季節感のあるイベントの開催（H29～） ・SNS やメディア等を活用した PR（H29～） ・人材育成・魅力ある店づくり（R3）→産振アドバイザー制度の活用 ・ファストフードコーナーの集客力向上（R5） →産振アドバイザー制度の活用	[成果] ・道の駅来場者数 H29.7月～R5.3月末： 143.1 万人 ・外販による売上額 <u>R5：1,311 千円</u> ・町内出荷者売上額 H29.7.6～R5.3 月末： 375,201 千円 ・新商品の開発 <u>H29</u> R5：11 商品
周辺施設との連携強化	・フェリー客の中土佐町への誘客に向けた、道の駅「なかとさ」を拠点とする情報発信強化及び周遊促進社会実験の実施（R2） ・黒潮本陣との連携企画（黒潮本陣 25 周年企画と合わせた道の駅クーポン発行など）（R3） ・メジカの新子の情報共有等による誘客の促進（R4～） ・大正町市場事業者とのイベントの共催（R4～） ・商店街商品の外販（R4～）	[課題] ・商品充実にに向けた生産者の確保とその連携 ・中心商店街や町内施設との連携の強化
地産外商の強化	・新商品開発（H29～） ・インターネット販売等を活用した外商活動（H30～） ・<u>EC サイト見直し（R6～）</u> →商品情報の更新・追加、漁師町ソルトの商品動画の掲載 ・JR 四国おもてなし観光列車、久礼駅での物販販売（R2～4） ・県外イベントへの参加・商談会への出展（R2～）	・外商活動の強化

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
売上高（施設全体）	3.0 億円 （R4）				3.9 億円

【用語】・SEA プロジェクト：Shopping（買う）、Eating（食べる）、Amusement（楽しむ）の頭文字から SEA プロジェクトと名付けられた。

第 5 期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
道の駅商品の充実 ■ (株)SEA プロジェクト ・生産者・事業者への声かけや説明会による新たな出荷者の掘り起こし	出荷者の掘り起こし			
道の駅の集客促進 ■ (株)SEA プロジェクト ・各テナント・生産者との連携によるイベント開催 ・広報・PR 活動（SNS 等含む）による商品・イベント情報発信強化 □ 県（地域本部） ・情報発信（SNS）について産振アドバイザー制度等の活用を提案	イベント開催			
	HP、SNS による情報発信			
中心商店街への観光客誘導 ■ (株)SEA プロジェクト ・観光客周遊促進に向けた情報共有による連携や共同企画の実施 ・道の駅からの周遊プラン作成、PR ・商品を通した町内事業者の魅力発信 □ 県（地域本部） ・周遊プラン作成に産振アドバイザー制度を提案	ニーズ 調査	周遊 プラン 作成	サービス展開	
	町内商品の販売・事業者の紹介			
販売強化 ■ (株)SEA プロジェクト ・EC サイト内容見直し（商品情報の更新・追加、購入しやすいよう操作性を向上）による販売力強化 <u>・ファストフードコーナーの商品の充実とオープンスペースの活用の検討</u> ・町内産品を活用した道の駅オリジナル商品による中土佐町の魅力発信 ・外商活動強化による販売拡大 □ 県（地域本部） ・各種支援制度の情報提供	修正点 洗出し	サイト 改修	運用	
	計画 作成	施設 整備	サービス 提供	
	道の駅オリジナル商品開発・販売			
	イベント・商談会・催事への参加			

修正項目(案)

修正前

高幡地域アクションプラン

	分野	商工業
AP 名 (実施地域)	No.11 梶原町地産地消・外商の促進 (梶原町)	
実施主体	梶原町商工振興協同組合、梶原町、JA 高知県（高西地区）、町内事業者、生産団体	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	生産者の確保や新商品の開発等により、雲の上商品のブランド化など地場商品の商品力を強化するとともに、多くの人を訪れ魅力的に感じられる新たな道の駅を整備し地産地消・外商を一層推進する。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
地場商品の販売促進	・EC サイト「雲の上ストア」運営開始（R2～） ・集出荷事業の開始（R4：実証、R5：開始） ・友好都市兵庫県西宮市の「西宮市民まつり」への出店 ・関西版県産品商談会への出展（菊芋）（R4） ・直販所出荷おうえん事業（町単）として営業許可申請に係る費用などを補助（R4～） ・道の駅ゆすはらにて自主企画イベント開催（R5） ・梶原町役場産業振興課内に道の駅準備室設置（R3） ・生産者と道の駅運営者による意見交換会の実施（R4） ・道の駅案内看板の設置（R5） ・売り場内に生産者紹介 POP と出荷物を使ったレシビの設置（R5） ・道の駅準備室による先進地視察（R5）	[成果] ・町単独事業による支援制度の創設 「直販所出荷おうえん事業」（R4～） ・新規出荷登録者数 R5：5 名 ・県版 HACCP 第 2 ステージ認証取得 R 元：2 事業者 [課題] ・売上アップに向けた新たな商品の開発・磨き上げ ・生産者を支える仕組みの構築
地場商品の商品力向上	・県主催食品表示研修や食品表示アドバイザーの活用（H30、R 元） ・6 次産業化アドバイザーの活用（H30） ・土佐 MBA 及び食品生産管理高度化支援研修の受講（H30） ・直販所出荷おうえん事業（町単）として生産基盤づくりや生産者意見交換会などを実施 ・直販所出荷おうえん事業（町単）を活用した生産者による先進地視察研修実施（R5）	・地場商品を使った「雲の上ブランド」商品の販売強化

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
直販所等の販売額	4,832 万円 (R4)				1 億円

直販所等：まちの駅「マルシェ・ユスハラ」、「雲の上の市場」（R9 年度～まちの駅「マルシェ・ユスハラ」、「新たな道の駅」）

第 5 期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
新たな道の駅の整備と体制等の強化 ■ 梶原町 ・運営主体、運営手法の検討選定 ・活用できる支援制度の検討 ■ 梶原町商工振興協同組合 ・既存 EC サイトの見直しと運用 ・新しい道の駅で販売する商品の検討選定 ・出荷者の掘り起こし ・人材の確保、専門家派遣による従業員の意識改革 ・専門家を導入した売り場づくりの検討 □ 県（地域本部） ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し、アドバイザー導入提案	人材育成・研修			
新たな地場商品の掘り起こしと PB 商品の開発 ■ 梶原町商工振興協同組合、梶原町 ・6 次産業化セミナーへの参加、既存の町内地場商品の掘り起こしを行う ・「雲の上ブランド」商品のブラッシュアップと新たな PB 商品の検討開発 ・商品パッケージの検討 ・テイクアウト商品の検討開発 □ 県（地域本部） ・研修会への参加呼びかけ ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し	商品選定		道の駅 完成 （R8） オープン （R9.7 予定）	
	出荷者への支援及び 生産者掘り起こし			
	売り場づくり			
地場商品の付加価値化による販売促進 ■ 梶原町商工振興協同組合、梶原町 ・食品表示研修など商品の魅力向上に向けた各種研修の受講 ・HACCP に沿った衛生管理の取り組み周知 ・町外への積極的な販促活動による認知度向上 □ 県（地域本部） ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し、アドバイザー導入提案	地場商品の掘り起こし			
	PB 商品のブラッシュアップ 商品開発			
	商品力向上に向けた ブランド力の強化			
	関係機関と連携した PR 活動			

修正後	
高幡地域アクションプラン	
	分野 商工業
AP 名 (実施地域)	No. <u>10</u> 梶原町地産地消・外商の促進 (梶原町)
実施主体	梶原町商工振興協同組合、梶原町、JA 高知県（高西地区）、町内事業者、生産団体
AP への位置づけ	H21.4 月
事業概要	生産者の確保や新商品の開発等により、雲の上商品のブランド化など地場商品の商品力を強化するとともに、多くの人々が訪れ魅力的に感じられる新たな道の駅を整備し地産地消・外商を一層推進する。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
地場商品の販売促進	・EC サイト「雲の上ストア」運営開始（R2～） ・集出荷事業の開始（R4：実証、R5：開始） ・友好都市兵庫県西宮市の「西宮市民まつり」への出店 ・関西版県産品商談会への出展（菊芋）（R4） ・直販所出荷おうえん事業（町単）として営業許可申請に係る費用などを補助（R4～） ・道の駅ゆすはらにて自主企画イベント開催（R5） ・梶原町役場産業振興課内に道の駅準備室設置（R3） ・生産者と道の駅運営者による意見交換会の実施（R4） ・道の駅案内看板の設置（R5） ・売り場内に生産者紹介 POP と出荷物を使ったレシビの設置（R5） ・道の駅準備室による先進地視察（R5） ・<u>特産品魅力化 WS の開催による地場商品の商品力向上（町単）（R5～）</u>	[成果] ・町単独事業による支援制度の創設 ・「直販所出荷おうえん事業」（R4～） ・新規出荷登録者数 R5：5 名 ・県版 HACCP 第 2 ステージ認証取得 - R 元：2 事業者 [課題] ・売上アップに向けた新たな商品の開発・磨き上げ ・生産者を支える仕組みの構築
地場商品の商品力向上	・県主催食品表示研修や食品表示アドバイザーの活用（H30、R 元） ・6 次産業化アドバイザーの活用（H30） ・土佐 MBA 及び食品生産管理高度化支援研修の受講（H30） ・直販所出荷おうえん事業（町単）として生産基盤づくりや生産者意見交換会などを実施 ・直販所出荷おうえん事業（町単）を活用した生産者による先進地視察研修実施（R5）	・地場商品を使った「雲の上ブランド」商品の販売強化

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
直販所等の販売額	4,832 万円 (R4)				1 億円

直販所等：まちの駅「マルシェ・ユスハラ」、「雲の上の市場」（R11 年度～まちの駅「マルシェ・ユスハラ」、「新たな道の駅」予定）

第 5 期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
新たな道の駅の整備と体制等の強化 ■ 梶原町 ・運営主体、運営手法の検討選定 ・活用できる支援制度の検討 ■ 梶原町商工振興協同組合 ・既存 EC サイトの見直しと運用 ・新しい道の駅で販売する商品の検討選定 ・出荷者の掘り起こし ・人材の確保、専門家派遣による従業員の意識改革 ・専門家を導入した売り場づくりの検討 □ 県（地域本部） ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し、アドバイザー導入提案				
新たな地場商品の掘り起こしと PB 商品の開発 ■ 梶原町商工振興協同組合、梶原町 ・6 次産業化セミナーへの参加、既存の町内地場商品の掘り起こしを行う ・「雲の上ブランド」商品のブラッシュアップと新たな PB 商品の検討開発 ・商品パッケージの検討 ・テイクアウト商品の検討開発 □ 県（地域本部） ・研修会への参加呼びかけ ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し				
地場商品の付加価値化による販売促進 ■ 梶原町商工振興協同組合、梶原町 ・食品表示研修など商品の魅力向上に向けた各種研修の受講 ・HACCP に沿った衛生管理の取り組み周知 ・町外への積極的な販促活動による認知度向上 □ 県（地域本部） ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し、アドバイザー導入提案				

修正前

分野 商工業

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
アンテナショップの魅力向上と外商の拡大につなげる商品づくりの推進	・津野町直販機能等強化（R4）→産振補助金の活用	[成果] ・道の駅布施ヶ坂入込者数の増加 - R1：138,627人 →R4：173,531人 ・満天の星とふるさとセンターが連携したメニュー開発 - R3～4：2品 ・直販所会員の確保 - R4：470人 - うち新規会員9人 ・放棄茶園の再生・維持 - R3：約0.8ha - R4：約0.72ha
出荷量の確保と地産地消の推進	・営農アドバイザーの配置等による生産者支援の強化充実 ・道の駅布施ヶ坂リニューアルによる販売強化（R3）、（有）津野町ふるさとセンターの経営強化（R4）→高知農山漁村発イノベーションサポートセンターの活用 ・各社の連携した取り組みの推進（R3～） 満天の星から星ふるヴィレッジ TENGU へ土産物供給 ふるさとセンターから星ふるヴィレッジ TENGU へ食材供給 満天の星からふるさとセンターへ食堂メニューの提供	[課題] ・直販所の出荷量の確保 ・地域産品を活用した商品開発 ・アンテナショップの老朽化 ・外貨を稼ぐための町内事業者間の連携体制 ・満天の星ブランドの認知向上
「つの茶」ブランドの推進による茶製品の販売拡大	・茶の販売力向上における課題分析（R2）、「つの茶販売戦略計画」の見直し（R3）→産振アドバイザー制度の活用 ・土佐茶ワークショップの参加（R4） ・津野町茶業振興計画の策定（R4） ・つの茶振興協議会の設立（R5） ・色彩選別機導入による品質向上（R5）	・茶の新たな販路開拓やPR活動など、販売体制の強化

町内主要２社：「(有)津野町ふるさとセンター」、「(株)満天の星」
茶製品販売額：JA 高知県(高西地区)と(株)満天の星の茶製品販売額の合計

15

修正後

高幡地域アクションプラン		分野	商工業
AP 名 (実施地域)	No.12 津野町地産地消・外商推進プロジェクト (津野町)		
実施主体	津野町、(有)津野町ふるさとセンター、(株)満天の星、JA 高知県(高西地区)		
AP への位置づけ	H21.4 月		
事業概要	町内の生産者や事業者、観光施設等が連携し、生産・流通・販売を一体的に進めるとともに、新商品開発や販売・PR を通じて道の駅やアンテナショップ等における地場産品の地産地消・外商を推進する。併せて、つの茶ブランドの推進やティーツーリズムの取り組みによる茶製品の販売促進と中山間地域における茶園の景観維持を目指す。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
アンテナショップの魅力向上と外商の拡大につなげる商品づくりの推進	・津野町直販機能等強化（R4）→産振補助金の活用	[成果] ・道の駅布施ヶ坂入込者数の増加 R1：138,627 人 →R4：173,531 人 →R5：184,096 人 ・満天の星とふるさとセンターが連携したメニュー開発 R3～4：2 品 ・直販所会員の確保 R4：470 人 うち新規会員 9 人 R5：472 人 うち新規会員12人
出荷量の確保と地産地消の推進	・津野町地域資源「ふる」活用ビジネス事業（H21～23）→産振補助金の活用 ・営農アドバイザーの配置等による生産者支援の強化充実 ・道の駅布施ヶ坂リニューアルによる販売強化（R3）、(有)津野町ふるさとセンターの経営強化（R4）→高知農山漁村発イノベーションサポートセンターの活用 ・各社の連携した取り組みの推進（R3～） 満天の星から星ふるヴィレッジ TENGU へ土産物供給 ふるさとセンターから星ふるヴィレッジ TENGU へ食材供給 満天の星からふるさとセンターへ食堂メニューの提供	・放棄茶園の再生・維持 R3：約 0.8ha R4：約 0.72ha R5：約 0.86ha [課題] ・直販所の出荷量の確保 ・地域産品を活用した商品開発 ・アンテナショップの老朽化 ・外貨を稼ぐための町内事業者間の連携体制 ・満天の星ブランドの認知向上 ・茶の新たな販路開拓やPR 活動など、販売体制の強化
「つの茶」ブランドの推進による茶製品の販売拡大	・つの茶販売戦略に基づく茶製品販売拡大事業（H27）→産振補助金の活用 ・茶の販売力向上における課題分析（R2）、「つの茶販売戦略計画」の見直し（R3）→産振アドバイザー制度の活用 ・土佐茶ワークショップの参加（R4） ・津野町茶業振興計画の策定（R4） ・つの茶振興協議会の設立（R5） ・色彩選別機導入による品質向上（R5）	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)主要 2 社の総売上高	3.70 億円 (R4)				4.46 億円
(2)直販所総販売額	1.33 億円 (R4)				1.40 億円
(3)茶製品販売額	3,936 万円 (R4)				4,400 万円

町内主要 2 社：「(有)津野町ふるさとセンター」、「(株)満天の星」
茶製品販売額：JA 高知県(高西地区)と(株)満天の星の茶製品販売額の合計

第 5 期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
アンテナショップのリニューアルによる魅力発信の強化 ■津野町 ・市場調査を踏まえたリニューアル方針の検討及び整備 □県（高幡地域本部） ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し 地域産品（津野町産の茶や農産物など）を生かした商品づくり ■(株)満天の星、JA 高知県(高西地区)、(有)津野町ふるさとセンター ・産振アドバイザー制度を活用し、新商品や加工品を開発 ・展示会や商談会、WEB での PR 発信による農産物・加工品の販売拡大 □県（高幡地域本部） ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し ・商品開発に関する産振アドバイザー制度の活用を提案		計画 設計	工事	リニ ーアル
	新商品の開発、販売・PR			
安心・安全な農産物の出荷と高付加価値化の取り組み ■津野町 ・営農アドバイザーの配置等による生産者支援（維持、確保） ・荒廃農地を活用した有機農業の取り組みの検討 □県（高幡地域本部等） ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し、広報支援 事業者間の連携による地産地消外商の推進 ■津野町、(有)津野町ふるさとセンター、(株)満天の星 ・町内産品の地域内循環の仕組みづくり	生産者支援、 有機農業の取り組みの検討			
	連携会議の実施、 地域内循環の仕組みづくり			
茶製品の販売拡大と中山間地域における景観の維持 ■津野町 ・生産・消費販売・文化振興を柱とした「津野町茶業振興計画」の推進 ・ティーツーリズムや観光とタイアップした取り組みの実施 □県（地域観光課、高幡地域本部等） ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し	「津野町茶業振興計画」の推進			
	ティーツー リズム等の 検討	ティーツーリズム等の 実施		

修正項目(案)

修正前

高幡地域アクションプラン

	分野	観光
AP 名 (実施地域)	No.16 高幡地域における広域観光の推進 (高幡地域全域)	
実施主体	(一社)奥四万十高知、須崎市、中土佐町、梶原町、津野町、四万十町	
AP への位置づけ	H26.4 月	
事業概要	(一社)奥四万十高知を中心に高幡地域内の観光、自然、食、人などの観光資源を組み合わせる新たな商品を作成するとともに、高幡地域ならではの魅力を情報発信し、セールス活動を行うことでエリアの知名度向上や誘客を促進し、地域経済の波及効果につなげていく。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
観光情報の発信	・奥四万十観光ガイドブック・マップの作成・配布（R元・R4） →エリアの情報発信を行うため、観光案内所等に奥四万十観光ガイドブックやマップを配布。 ・ホームページの改修と情報発信（R2・R4～） →域内の宿泊施設に対しヒアリングを実施し、HPの改修による宿の魅力発信と宿泊促進 ・インバウンド観光大使事業の実施（R4～） →明德義塾中・高等学校生をインバウンド観光大使に任命	[成果] ・奥四万十高知の法人化（R4） ・旅行業第3種の登録（R4） ・旅行商品の企画・販売開始（R5～）
地域観光商品等の造成、磨き上げ、販売	・旅行会社等へのセールスの実施 ・域内周遊クーポン事業の実施（R2、R5） →プレミアム付きクーポンを販売し、域内周遊を促進 ・域内周遊企画の実施（R4） →奥四万十泊まらんと巡らんとキャンペーンの実施 訪日グローバルキャンペーン等に対応したコンテンツの造成（R3） →幡多広域観光協議会と連携した訪日外国人向け旅行商品の販売	[課題] ・ターゲットを明確にしたマーケティング ・万博と連携したインバウンド誘客 ・県の観光戦略と連動した周遊促進、滞在時間延長の取り組み ・教育旅行誘致に向けた取り組み
広域観光組織の機能強化	・奥四万十広域観光振興計画（第2期）の策定（R5） ・地域内での連携体制の構築 ・観光客受入態勢の基盤とマーケティング機能の強化	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)主要観光施設入込数	2,081,383人（R4）				2,646,000人
(2)主要宿泊施設宿泊者数	59,120人（R4）				64,000人

R9 年度目標値は、「第3期奥四万十広域観光振興計画」の改定において R9 目標値が設定されるまでの間の、暫定値とする。

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
情報発信及びプロモーションの強化 ■奥四万十高知 ・構成市町や観光協会から観光情報等の収集を行い、ホームページ、SNS、パンフレット等で情報を発信。 ・主要マーケットである関西及びインバウンド向けのプロモーションの強化 □県（地域観光課、地域本部等） ・県の政策等の情報提供	関西及びインバウンド向けのプロモーション			
	ホームページ、SNS 等による情報発信			
地域資源の商品化及び販売強化 ■奥四万十高知 ・着地型商品(ツアー・体験)の造成・販売強化 ・ホームページを通じた観光商品の販売 ・域内周遊企画の実施による周遊促進 □県（地域観光課、地域本部等） ・商品化等の支援	県キャンペーンや旅行トレンドに合わせた商品の造成、販売			
旅行者誘致に向けたセールス活動 ■奥四万十高知 ・各種イベントへの出展による PR 活動 ・クルーズ船向けオプションツアーの企画提案 □県（地域観光課、地域本部等） ・商談会等の情報提供	県内外へのセールス活動			
旅行者受入体制基盤・マーケティング機能の強化 ■奥四万十高知 ・体験事業者やガイド等の観光人材の育成 ・教育旅行の受け入れ ・デジタルを活用したデータ分析、マーケティング □県（地域観光課、地域本部等） ・観光客動向データの活用支援	教育旅行受入準備	受入開始		

修正後

高幡地域アクションプラン		分野	観光
AP 名 (実施地域)	No.15 高幡地域における広域観光の推進 (高幡地域全域)		
実施主体	(一社)奥四万十高知、須崎市、中土佐町、梶原町、津野町、四万十町		
AP への位置づけ	H26.4 月		
事業概要	(一社)奥四万十高知を中心に高幡地域内の観光、自然、食、人などの観光資源を組み合わせる新たな商品を作成するとともに、高幡地域ならではの魅力を情報発信し、セールス活動を行うことでエリアの知名度向上や誘客を促進し、地域経済の波及効果につなげていく。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
観光情報の発信	・奥四万十観光ガイドブック・マップの作成・配布（R元・R4） →エリアの情報発信を行うため、観光案内所等に奥四万十観光ガイドブックやマップを配布 ・ホームページの改修と情報発信（R2・R4～） →域内の宿泊施設に対しヒアリングを実施し、HPの改修による宿の魅力発信と宿泊促進 ・インバウンド観光大使事業の実施（R4～） →明徳義塾中・高等学校生をインバウンド観光大使に任命 ・大阪・関西万博に向けた商品造成及び情報発信（R6） →万博ポータルサイトへの商品掲載	[成果] ・HPのPV数 R3：221,715PV →R5：406,994PV ・インバウンド観光大使事業研修修了者 R4：31名 [課題] ・ターゲットを明確にしたマーケティング ・万博からのインバウンド誘客 ・県の観光戦略と連動した周遊促進、滞在時間延長の取り組み ・教育旅行誘致に向けた取り組み
地域観光商品等の造成、磨き上げ、販売	・旅行会社等へのセールスの実施 ・域内周遊クーポン事業の実施（R2、R5） →プレミアム付きクーポンを販売し、域内周遊を促進 ・域内周遊企画の実施（R3～） →奥四万十泊まらんと巡らんとキャンペーンの実施 ・インバウンドコンテンツの造成（R3、R5～） →幡多広域観光協議会と連携した訪日外国人向け旅行商品の販売（R5～） →県と連携したインバウンド向けプレミアムコンテンツの造成（R5～） ・宿泊施設の販売強化（R6） →OTA利用促進のための登録勉強会の開催	
広域観光組織の機能強化	・奥四万十広域観光振興計画（第2期）の策定（R5） ・地域内での連携体制の構築 ・観光客受入態勢の基盤とマーケティング機能の強化	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)主要観光施設入込数	2,081,383人（R4）				2,646,000人
(2)主要宿泊施設宿泊者数	59,120人（R4）				64,000人

R9年度目標値は、「第3期奥四万十広域観光振興計画」の改定においてR9目標値が設定されるまでの間の、暫定値とする。

第 5 期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
情報発信及びプロモーションの強化 ■ 奥四万十高知 ・構成市町や観光協会から観光情報等の収集を行い、ホームページ、SNS、パンフレット等で情報を発信 ・主要マーケットである関西及びインバウンド向けのプロモーションの強化 □ 県（地域観光課、地域本部等） ・県の政策等の情報提供	関西及びインバウンド 向けのプ ロモーション			
	ホームページ、SNS 等による情報発信			
地域資源の商品化及び販売強化 ■ 奥四万十高知 ・着地型商品（ツアー・体験）の造成・販売強化 ・ホームページを通じた観光商品の販売 ・域内周遊企画の実施による周遊促進 □ 県（地域観光課、地域本部等） ・商品化等の支援	県キャンペーンや旅行トレンドに合わせた商品の造成、販売			
旅行者誘致に向けたセールス活動 ■ 奥四万十高知 ・各種イベントへの出展による PR 活動 ・クルーズ船向けオプションツアーの企画提案 □ 県（地域観光課、地域本部等） ・商談会等の情報提供	県内外へのセールス活動			
旅行者受入体制基盤・マーケティング機能の強化 ■ 奥四万十高知 <u>・組織の DMO 化及び組織体制の充実</u> <u>・教育旅行の受け入れのための体験事業者やガイド等の観光人材の育成</u> ・デジタルを活用したデータ分析、マーケティング □ 県（地域観光課、地域本部等） ・観光客動向データの活用支援	DMO 化		組織体制の充実	
	教育旅行受入準備	受入開始		

修正項目(案)

修正前

高幡地域アクションプラン

分野

観光

AP 名 (実施地域)	No.20 カツオを起点とした持続可能な観光を主軸とする地域産業の振興 (中土佐町)
実施主体	(一社)なかとさ観光協会、中土佐町、(株)中土佐町地域振興公社、大正町市場協同組合、中土佐町商工会
AP への位置づけ	H21.4 月
事業概要	10 年後も「土佐久礼かつお」の本場としてカツオを食べにお越しいただける町を目指して、町内関係者が連携してカツオによる観光を推進することでカツオ産業を守り、カツオを起点とした持続可能な観光地域づくりを行う。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
受け入れ態勢の強化	・観光拠点施設「ぜよびあ」オープン（H28） →観光拠点等整備事業費補助金の活用 ・黒潮本陣コテージ改修、コテージ遊歩道整備（R2） →観光施設等緊急整備事業費補助金の活用 ・黒潮本陣本館改修（R3） →観光振興推進総合支援事業費補助金の活用	[成果] ・体験受入数 R4:1,630 人 ・宿泊者数(黒潮本陣) R4:8,529 人 (1～3 月の休業あり) ・大正町市場入込数 R4:218,917 人 ・SNS フォロワー数 Instagram:3,700 人
土佐久礼かつおのファンづくり	・「かつお祭」など町内イベントの開催 ・土佐久礼におけるカツオを中心とした食体験のインバウンド施策（R5） →観光庁観光コンテンツ造成支援事業の活用 ・関西圏へのイベント出店（R5～） ・高知空港中土佐フェア開催（R5～）	[課題] ・周遊促進と滞在時間延長の仕組みづくり ・観光客受け入れ環境の整備 ・関西圏からの集客促進
観光客の町内周遊促進	・食と体験の深掘りと回遊商品開発（R4） →観光庁看板商品創出事業の活用 ・周遊プランの作成とツアーの実施（R5） 「昔ながらの漁師町の路地を巡る昭和にタイムスリップコース」 「土佐久礼 NO KATSUO NO LIFE コース」	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)観光施設入込数	476,457 人 (R4)				524,000 人
(2)黒潮本陣宿泊者数	8,529 人 (R4)				12,000 人
(3)タタキ体験受入数	1,512 人 (R4)				1,800 人
(4)町内事業者へのカツオ販売額	143 百万円 (R4)				157 百万円

3 ヶ月（1～3 月）の休業あり

第 5 期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
観光協会の体制整備 ■(一社)なかとさ観光協会 ・観光案内を強化するための拠点整備の検討及び体制強化 ・観光客等の利便性向上（コインロッカー整備等） ・機能強化（観光客おもてなしのための物販機能の検討や商品開発） □県（地域本部） ・各種支援制度の情報提供	拠点整備	体制整備・機能強化		
		観光案内情報発信		
	物販機能の検討	お土産商品開発・販売		
関西圏等における PR 活動の強化 ■(一社)なかとさ観光協会、中土佐町商工会 ・関西圏や高知空港などでのイベント・催事による「土佐久礼かつお」のファンづくり □県（地域本部、大阪事務所） ・関西圏で実施されるイベント等の情報提供、支援制度の紹介 中土佐町を訪問した観光客への PR ■(一社)なかとさ観光協会、地元事業者 ・インバウンドを意識した観光客向けカツオプロモーション ・カツオ授業の実施（小学生、大人、観光客向け）		関西圏を中心とした県外での PR 活動		
		観光客への PR (観光列車の乗客への PR、カツオ授業等)		
周遊の仕組みづくり ■(一社)なかとさ観光協会 ・中土佐町内の観光素材を周遊する観光コースの提案 (土佐久礼駅、久礼大正町市場、道の駅なかとさ、黒潮本陣、久礼八幡宮、双名島、西岡酒造店、美術館、漁業体験など) ・観光客向けのサービス充実（レンタサイクル事業、手荷物預かりサービス） ・中心商店街周辺の駐車場整備 □県（地域観光課、地域本部） ・観光関連支援制度の情報提供		周遊プランの磨き上げ・提供		
	設備整備	設備を活用した周遊促進 (レンタサイクル等)		
	検討	駐車場整備	サービス提供	

修正後

高幡地域アクションプラン		分野	観光
AP 名 (実施地域)	No. <u>19</u> カツオを起点とした持続可能な観光を主軸とする地域産業の振興 (中土佐町)		
実施主体	(一社)なかとさ観光協会、中土佐町、(株)中土佐町地域振興公社、大正町市場協同組合、中土佐町商工会		
AP への位置づけ	H21.4 月		
事業概要	10 年後も「土佐久礼かつお」の本場としてカツオを食べにお越しいただける町を目指して、町内関係者が連携してカツオによる観光を推進することでカツオ産業を守り、カツオを起点とした持続可能な観光地域づくりを行う。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
受け入れ態勢の強化	- 観光拠点施設「ぜよびあ」オープン（H28） →観光拠点等整備事業費補助金の活用 - 黒潮本陣コテージ改修、コテージ遊歩道整備（R2） →観光施設等緊急整備事業費補助金の活用 - 黒潮本陣本館改修（R3） →観光振興推進総合支援事業費補助金の活用 <u>・観光客の利便性向上（コインロッカー整備）</u>	[成果] - 体験受入数 <u>R5:1,775 人</u> - 宿泊者数(黒潮本陣) <u>R5 14,357 人</u> - 大正町市場入込数 <u>R5: 405,319 人</u> - SNS フォロワー数 Instagram : <u>6,700 人</u> - 周遊プランの造成 2 件
土佐久礼かつおのファンづくり	「かつお祭」など町内イベントの開催 - 土佐久礼におけるカツオを中心とした食体験のインバウンド施策（R5） →観光庁観光コンテンツ造成支援事業の活用 - 関西圏へのイベント出店（R5～） - 高知空港中土佐フェア開催（R5～） <u>・高知県アンテナショップ（東京・大阪）で「土佐久礼かつおフェア」開催（R6）</u> <u>・カツオ授業の実施（町内小中学校 6 回/年、昭和小学校、梶原中学校、JICA 研修、台湾留学生研修、奥四万十高知研修等）</u>	[課題] - 周遊促進と滞在時間延長の仕組みづくり - 観光客受け入れ環境の整備 - 関西圏からの集客促進
観光客の町内周遊促進	- 食と体験の深掘りと回遊商品開発（R4） →観光庁看板商品創出事業の活用 - 周遊プランの作成とツアーの実施（R5） 「昔ながらの漁師町の路地を巡る昭和にタイムスリップコース」 「土佐久礼 NO KATSUO NO LIFE コース」	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)観光施設入込数	476,457 人 (R4)				524,000 人
(2)黒潮本陣宿泊者数	8,529 人 (R4)				12,000 人
(3)タタキ体験受入数	1,512 人 (R4)				<u>2,200 人</u>
(4)町内事業者へのカツオ販売額	143 百万円 (R4)				157 百万円

3 ヶ月（1～3 月）の休業あり

第 5 期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
観光協会の体制整備 ■（一社）なかとさ観光協会 ・観光案内を強化するための拠点整備の検討及び体制強化（<u>人材確保及び特性に応じた育成、自主事業開発と収益性担保、組織体の拡充等</u>） ・観光客等の利便性向上 ・機能強化（観光客おもてなしのための物販機能の検討や商品開発） □県（地域本部） ・各種支援制度の情報提供	拠点整備	体制整備・機能強化		
		観光案内情報発信		
	物販機能の検討	お土産商品開発・販売		
関西圏等における PR 活動の強化 ■（一社）なかとさ観光協会、中土佐町商工会 ・関西圏や高知空港などでのイベント・催事による「土佐久礼かつお」のファンづくり □県（地域本部、大阪事務所） ・関西圏で実施されるイベント等の情報提供、支援制度の紹介 中土佐町を訪問した観光客への PR ■（一社）なかとさ観光協会、地元事業者 ・インバウンドを意識した観光客向けカツオプロモーション ・カツオ授業の実施（小学生、大人、観光客向け）		関西圏を中心とした県外での PR 活動		
		観光客への PR （観光列車の乗客への PR、カツオ授業等）		
周遊の仕組みづくり ■（一社）なかとさ観光協会 ・中土佐町内の観光素材を周遊する観光コースの提案（土佐久礼駅、久礼大正町市場、道の駅なかとさ、黒潮本陣、久礼八幡宮、双名島、西岡酒造店、美術館、漁業体験など） <u>・どっぶり高知旅キャンペーンによるツアー商品造成</u> ・観光客向けのサービス充実（レンタサイクル事業、手荷物預かりサービス） ・中心商店街周辺の駐車場整備<u>に向けた検討</u> □県（地域観光課、地域本部） ・観光関連支援制度の情報提供	周遊プランの磨き上げ・提供	設備整備	設備を活用した周遊促進 （レンタサイクル等）	検討 駐車場整備 サービス提供

高幡地域アクションプラン		分野	観光
AP 名 (実施地域)	No.21 梶原町の体験型・滞在型観光の推進 (梶原町)		
実施主体	(一社)ゆすはら雲の上観光協会、梶原町、梶原町商工会、松原まろうど会、坂本龍馬脱藩の郷 ゆすはらであいの会		
AP への位置づけ	H21.4 月		
事業概要	梶原町の玄関口である太郎川公園を拠点とし、新たなホテル等の整備と併せて、観光スポットである隈研吾建築群、坂本龍馬脱藩の道や森林セラピーロードなどの滞在型観光や新たな体験プログラムの造成による体験型観光などにより、周遊観光や交流人口の拡大を図っていく。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入体制の充実	・太郎川公園内多言語サインの設置（R4） →観光振興総合支援事業費補助金の活用 ・（一社）ゆすはら雲の上観光協会による体験プログラムの造成、ツアー誘致（R3～） ・久保谷セラピーロードの案内板及びパンフレットを多言語にリニューアル（H30） ・隈研吾建築案内ガイド開始（R2） ・森林フェスティバルの開催（R3～） ・四国運輸局「将来にわたって旅行者を惹きつける地域・日本の新たなレガシー形成事業」採択による町内観光資源の調査（R4） ・自然・体験アドバイザーの活用による案内ガイドの育成（R4）	[成果] ・（一社）ゆすはら雲の上観光協会の設立（R3） ・太郎川公園再生基本構想の策定（R4） ・体験プログラムの造成 R5：11 件
誘客活動	・（一社）ゆすはら雲の上観光協会によるパンフレット、映像作品の施策による PR（R4～） ・オーバーツーリズム対策の一環として「パークアンドライド実証事業」を実施（R5）（四国運輸局） ・カルストエリア 5 市町による連携の取り組み（R4～） ・梶原町産ブドウを使用したワインとカルスト産ゆすはら牛のイベント実施（R4）	[課題] ・観光情報発信の強化 ・観光客受入体制の整備 ・町内周遊に向けた取り組み
受入基盤の整備	・隈研吾ミュージアムの整備（R 元） ・ゆすはら湿性植物園、太郎川公園キャンプ場の整備（R4） →観光振興総合事業費補助金を活用 ・町内観光地に遊歩道を設置するなど受入体制を構築（R4） →博覧会受入環境整備補助金を活用 ・森林セラピーロードにトイレを新設（R4） →博覧会受入環境整備補助金を活用 ・太郎川公園再生基本構想の策定（R4） →産振アドバイザー制度の活用	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)主要宿泊施設宿泊者数	10,335 人 (R4)				14,000 人
(2)主要観光施設入込数	113,131 人 (R4)				120,000 人

主要宿泊施設：マルシェ・ユスハラ、町内民宿事業者、新たなホテル（R9 年度～）

主要観光施設：雲の上の図書館

第 5 期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
新たなホテルを含む太郎川公園一体整備に向けた取り組み ■ 梶原町、ゆすはら雲の上観光協会 ・ 運営主体、運営方法の検討 ・ 施設整備と並行し誘客の方法について検討 ・ 公園内にアクティビティ施設を整備 □ 県（地域本部） ・ 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し				ホテル・レストラン完成（R8） オープン（R9.7 予定）
新たなレストラン整備にかかる地域食材を活用したメニュー開発 ■ 梶原町、ゆすはら雲の上観光協会 ・ 専門家の導入による地域食材を使ったメニューの開発 ・ 梶原町産ブドウを使用したワインの活用検討 □ 県（地域本部） ・ 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し				
観光情報発信力と誘客活動の強化 ■ 梶原町、ゆすはら雲の上観光協会 ・ 体験プログラムの造成 ・ 専門家の導入による町内周遊プランの作成 ・ （一社）奥四万十高知と連携した観光情報発信及びインバウンド等への誘客活動 □ 県（地域本部） ・ 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し				
拠点観光施設スタッフの人材育成と町内事業者の受入態勢整備 ■ 梶原町、ゆすはら雲の上観光協会 ・ 第二種旅行業登録 ・ 拠点観光施設、拠点宿泊施設から町内への波及を目指し町内事業者間の連携を推進 ・ 町内宿泊事業者の受入体制の整備 □ 県（地域本部） ・ 各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し				

修正後	
高幡地域アクションプラン	
	分野 観光
AP 名 (実施地域)	No.20 梶原町の体験型・滞在型観光の推進 (梶原町)
実施主体	(一社)ゆすはら雲の上観光協会、梶原町、梶原町商工会、松原まろうど会、坂本龍馬脱藩の郷 ゆすはらであいの会
AP への位置づけ	H21.4 月
事業概要	梶原町の玄関口である太郎川公園を拠点とし、新たなホテル等の整備と併せて、観光スポットである隈研吾建築群、坂本龍馬脱藩の道や森林セラピーロードなどの滞在型観光や新たな体験プログラムの造成による体験型観光などにより、周遊観光や交流人口の拡大を図っていく。

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入体制の充実	・太郎川公園内多言語サインの設置（R4） → 観光振興総合支援事業費補助金の活用 ・（一社）ゆすはら雲の上観光協会による体験プログラムの造成、ツアー誘致（R3～） ・久保谷セラピーロードの案内板及びパンフレットを多言語にリニューアル（H30） ・隈研吾建築案内ガイド開始（R2） ・森林フェスティバルの開催（R3～） ・四国運輸局「将来にわたって旅行者を惹きつける地域・日本の新たなレガシー形成事業」採択による町内観光資源の調査（R4） ・自然・体験アドバイザーの活用による案内ガイドの育成（R4） ・<u>太郎川公園再整備事業は、（一社）雲の上観光協会を中心としたコンソーシアム（共同事業体）により進めていくことが概ね決定（R6）</u>	[成果] ・（一社）ゆすはら雲の上観光協会の設立（R3） ・太郎川公園再生基本構想の策定（R4） ・体験プログラムの造成 R5：11 件
誘客活動	・（一社）ゆすはら雲の上観光協会によるパンフレット、映像作品の施策による PR（R4～） ・オーバーツーリズム対策の一環として「パークアンドライド実証事業」を実施（R5）（四国運輸局） ・カルストエリア 5 市町による連携の取り組み（R4～） ・梶原町産ブドウを使用したワインとカルスト産ゆすはら牛のイベント実施（R4）	[課題] ・観光情報発信の強化 ・観光客受入体制の整備 ・町内周遊に向けた取り組み
受入基盤の整備	・隈研吾ミュージアムの整備（R 元） ・ゆすはら湿性植物園、太郎川公園キャンプ場の整備（R4） → 観光振興総合事業費補助金を活用 ・町内観光地に遊歩道を設置するなど受入体制を構築（R4） → 博覧会受入環境整備補助金を活用 ・森林セラピーロードにトイレを新設（R4） → 博覧会受入環境整備補助金を活用 ・太郎川公園再生基本構想の策定（R4） → 産振アドバイザー制度の活用	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)主要宿泊施設宿泊者数	10,335 人 (R4)				14,000 人
(2)主要観光施設入込数	113,131 人 (R4)				120,000 人

主要宿泊施設：マルシェ・ユスハラ、町内民宿事業者、新たなホテル （R11 年度～（予定））

主要観光施設：雲の上の図書館

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
新たなホテルを含む太郎川公園一体整備に向けた取り組み ■ 梶原町、ゆすはら雲の上観光協会 ・運営主体、運営方法の検討 ・施設整備と並行し誘客の方法について検討 ・公園内にアクティビティ施設を整備 □ 県（地域本部） ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し				実施設計、工事	
新たなレストラン整備にかかる地域食材を活用したメニュー開発 ■ 梶原町、ゆすはら雲の上観光協会 ・専門家の導入による地域食材を使ったメニューの開発 ・梶原町産ブドウを使用したワインの活用検討 □ 県（地域本部） ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し		誘客方法の検討			
観光情報発信力と誘客活動の強化 ■ 梶原町、ゆすはら雲の上観光協会 ・体験プログラムの造成 ・専門家の導入による町内周遊プランの作成 ・（一社）奥四万十高知と連携した観光情報発信及びインバウンド等への誘客活動 □ 県（地域本部） ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し		地域食材の洗い出し			
拠点観光施設スタッフの人材育成と町内事業者の受入態勢整備 ■ 梶原町、ゆすはら雲の上観光協会 ・第二種旅行業登録 ・拠点観光施設、拠点宿泊施設から町内への波及を目指し町内事業者間の連携を推進 ・町内宿泊事業者の受入態勢の整備 □ 県（地域本部） ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し		メニュー開発、提供			
		町内周遊プラン作成			
		観光情報発信強化			
		町内事業者への聞き取り			
		町内連携の検討			
		専門家を導入したスタッフ研修			